

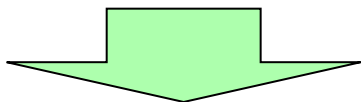
石巻市(東北圏ブロック)

【計画期間 22年3月～27年3月】

- ・江戸期 : 奥州最大の米の集積港となる交易都市として発展
- ・明治～戦前 : 東北本線から外れ、往事の賑わいを失う
- ・戦後～ : 新産業都市指定を受け、水産業・商業のほか、工業都市としても発展

○ 飲食施設の減少、石ノ森萬画館などの観光施設の相対的魅力低下等により、来街客数などに減少傾向

○ 中心市街地の大規模店舗の閉店、三陸自動車道開通に伴う郊外大型店の出店等により商業機能が低下



○ 歩行者・自転車通行量の減少

(12地点: 平日・休日合計)

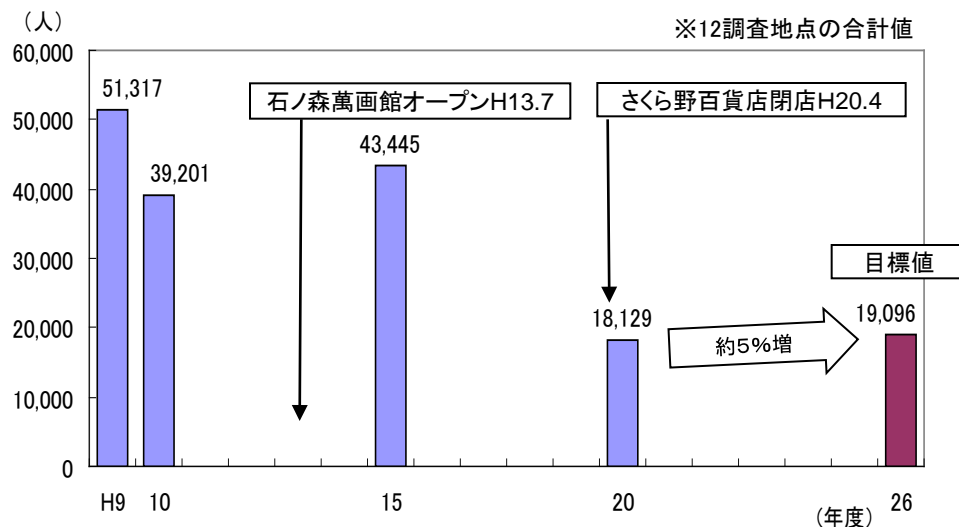
H9: 51,317人/日 → H20: 18,129人/日 (▲65%)

○ 定住人口の減少

H10: 3,960人 → H21: 3,176人 (▲20%)

目標	指標	現況値	目標値(H26年度)
集客施設による賑わい	3拠点施設の利用者数	698,118人(H20年度)	963,696人
回遊する人による賑わい	歩行者・自転車通行量(平日・休日合計)	18,129人(H20年度)	19,096人
住む人による賑わい	中心市街地における定住人口	3,176人(H21年度)	3,186人

【歩行者・自転車通行量[平日・休日12地点]の推移と数値目標】



■「萬画」「食・健康」「交流」による賑わいのあるまちづくりを目指す。

⇒主要事業: ①新庁舎移転・再整備 ②あいプラザ・石巻(旧ペアーレ)再活用 ③石ノ森萬画館リニューアルなど

■石巻の良さを凝縮した中心市街地を楽しく回遊させるまちづくりを目指す。

⇒主要事業: ④道路等(食彩通り、マンガモニュメント等)の整備 ⑤まちなか賑わい交流拠点施設(仮称:まちなか博物館)の整備 ⑥まちなか広場の整備 ⑦川を活かしたまちづくり ⑧中瀬地区の公園化など

■安心して住み続けることのできるまちづくりを目指す。

⇒主要事業: ⑨高齢者向け賃貸住宅の整備 など

石巻市中心市街地活性化基本計画の事業概要

「萬画」「食・健康」「交流」による賑わいのあるまちづくり

石巻の良さを凝縮した中心市街地を楽しく回遊させるまちづくり

○新庁舎移転・整備 ①

石巻市の玄関口である駅前「旧さくら野ビル」空フロアに市庁舎を移転・再生。併せて、市民ホール、市民サロンなどの交流スペースを設け、活性化のきっかけとする。



市民交流スペースのイメージ

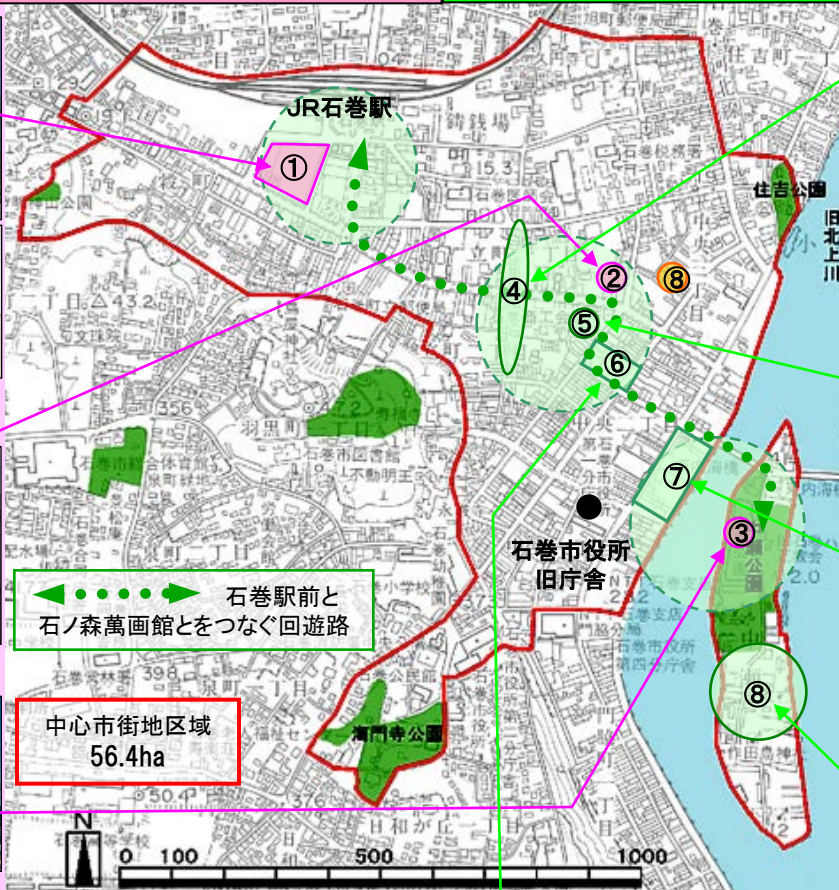
○あいプラザ・石巻(旧パール)再活用 ②

市が、撤退予定であった健康増進施設を取得、子育て支援の機能を付加する等により再活用し、利用者増加を図る。



○石ノ森萬画館リニューアル ③

石ノ森萬画館の企画展示内容等をリニューアルし、リピーター来訪を促す。



◀ ● ● ● ● ▶ 石巻駅前と石ノ森萬画館とをつなぐ回遊路

中心市街地
56.4ha

○道路(仮称:食彩通り)の整備 ④

マンガロードと連携させ、地元石巻の産品を使った飲食店が集積している食彩通りを整備。

◇マンガロード=石巻駅前から石ノ森萬画館までの回遊路をはじめとしたいくつかの通りにキャラクターのモニュメント等を設置し、マンガロードとして整備。



食彩通り(インターロッキング化)のイメージ

○まちなか賑わい交流拠点施設(仮称:まちなか博物館)の整備 ⑤

回遊路沿いの空店舗を活用し、石巻の歴史等を紹介する博物館等を整備。観光客の来場、市民の交流促進を図る。

○川を活かしたまちづくり ⑦

旧丸光ビルの解体、旧北上川堤防整備等の河川改修と併せて、カフェや旬鮮市場等の整備を検討。



堤防等整備後のイメージ

○中瀬地区の公園化 ⑧

石ノ森萬画館のある中瀬地区内の南部分に海鮮レストランやギャラリー等の整備を検討、来街者の回遊性を図る。



公園化整備後のイメージ

○まちなか広場の整備 ⑥

石ノ森萬画館に至る回遊路の中心部分にまちなか広場を設置。



まちなか広場のイメージ

○駅周辺の整備

駅前に市庁舎が移転することに併せ、自転車置場や一般車両用の駐車帯を整備。また、植栽・パーゴラ等の整備し、空間の魅力を向上。



安心して住み続けることのできるまちづくり

○高齢者向け賃貸住宅の供給促進 ⑨

民間事業者による賃貸住宅(地域優良賃貸住宅・高齢者型)の整備および家賃減額に対する補助を実施。

○地域住宅の整備(第1分庁舎跡地の利活用)

市庁舎移転後の跡地については、民間事業者による賃貸住宅(地域優良賃貸住宅・一般型)の建設を誘導。